

深綠色ニ至ル、コレヲ花戸ニ眞ノ青實ト云、一種ハ熟シテ微シク褐色ヲ帶ブ、カバミト名ク、下品トス、其餘花戸ニホウトク、ラシヤ、イモバ等ノ名、五七品アリト雖ドモ、悉ク變化ニ屬シテ、久ク其形ヲ存スルコト能ハズ、故ニコヽニ略ス、

〔草木育種下葉或實視べきもの〕^{おもと}万年青^{おもと}花鏡 種類多し、長島雪山大名曙、鍬形等猶多し、又なんきんおもとは、幅三四分長さ三寸ばかり花實なし、總て植る地は赤土に砂をませて植、油糟溝の水米泔水等澆てよし、陰地に植べし、或は云おもとは毒あり、然ども鳥此實を食を見れば、格別の毒もあるまじ、漢土にては万事の祝儀ごとに万年青を用ること、本邦にて松竹を用るがごとし、花鏡云、万年青一名藍吳中人家多種之、以其盛衰占休咎造屋移居行聘治曠、小兒初生一切喜事無不用之、以爲祥瑞口號、至於結姻幣聘雖不取生者亦必剪造綾絹肖其形、以代之、又與吉祥草葱松四品並列盆中、亦俗套也、

〔剪花翁傳三月開花〕万年青 老母艸 藜蘆 周屋 花黃也、開花五月、方二分陰地中濕り、土砂雜肥油粕年中用ふべし、又にしん絞粕よく乾、おのづから粉となりしを入れし、干鰯などの油物は惡し、是もよく乾きたるは粉にして入る、も可也、されどにしんには如す、分株下種、移兩彼岸共に玄かるべし、花壇に植るもよし、大概盆栽の方勝れり、夏日は葭簾を以日覆すべし、夕方より取はらうべし、冬日は風寒雨霜を防ぐべし、種類多し、插花に用ふるの其三四種は、都の尉宗碩、長島筑前久安寺、此外白縦斑、黃縦斑等種類異名なるもの數多也、花實葉四季に應じて用ふるもの也、因云葉筒に成て、左右合せ目なし、形恰吹矢の羽のごとし、長九寸許、纔に一株而已、豐後より產す、一覽せしに寔に希代の雅種なり、

〔剪花翁傳四月開花〕万年青 九月實淡赤し、漸々色増て春に至迄實保つ也、されど霜雪又は鳥を防ぐために、澀紙の袋を被せおくべし、